

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

Kameyama US
Filed 9/29/03
Q 77532
10f1

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 0 月 4 日
Date of Application:

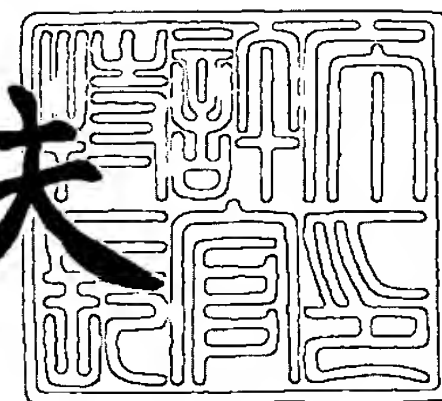
出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 2 9 2 6 0 4
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 2 - 2 9 2 6 0 4]

出 願 人 埼 玉 日 本 電 気 株 式 有 限 公 司
Applicant(s):

2 0 0 3 年 9 月 3 日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出 証 番 号 出 証 特 2 0 0 3 - 3 0 7 1 8 3 4

【書類名】 特許願

【整理番号】 14002121

【提出日】 平成14年10月 4日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04M 1/00

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県児玉郡神川町大字元原字豊原 3 0 0 番 1 8 埼玉
日本電気株式会社内

【氏名】 亀山 英彦

【特許出願人】

【識別番号】 390010179

【氏名又は名称】 埼玉日本電気株式会社

【代理人】

【識別番号】 100088812

【弁理士】

【氏名又は名称】 ▲柳▼川 信

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 030982

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9100916

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 携帯電話機及びそれに用いるキャラクタ表示演出方法並びにそのプログラム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機であって、自端末の各種イベントが検出された時に当該イベントに対応する履歴情報に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御するキャラクタ演出手段を有することを特徴とする携帯電話機。

【請求項 2】 前記キャラクタ演出手段は、前記履歴情報を基に前記イベントに関連する所定動作の発生時刻に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 1 記載の携帯電話機。

【請求項 3】 前記キャラクタ演出手段は、前記履歴情報における通話先の電話番号の蓄積数に応じて異なるパターンとなるように前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 1 または請求項 2 記載の携帯電話機。

【請求項 4】 前記キャラクタ演出手段は、前記所定動作の発生時刻が奇数の場合と偶数の場合とにおいて異なるパターンとなるように前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 2 または請求項 3 記載の携帯電話機。

【請求項 5】 前記キャラクタ演出手段は、スケジュール機能に予め設定された特定の日付情報に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 2 から請求項 4 のいずれか記載の携帯電話機。

【請求項 6】 キー操作部を含む第 1 の筐体と、前記第 1 の筐体に開閉自在に接続する第 2 の筐体と、前記第 1 及び第 2 の筐体の開閉状態を検知する検知手段とを含み、

前記キャラクタ演出手段は、前記検知手段による前記第 1 及び第 2 の筐体における開閉状態の変化の検知結果に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 1 から請求項 5 のいずれか記載の携帯電話機。

【請求項 7】 前記キャラクタ演出手段は、電話発信後の終話ボタン押下時、電話着信の際の終話ボタン押下時、不在着信及び新着メールのうちの少なくとも一方が発生した時、前記第 1 及び第 2 の筐体の開閉状態が変化した時各々のイベント画面においてどのようなキャラクタを表示するかを発信履歴、発信時の時刻、着信履歴、着信時の時刻、前記検知手段で前記第 1 及び第 2 の筐体の開閉状態の変化を検知した時刻からそれぞれ判断し、決定したキャラクタを表示画面に表示することを特徴とする請求項 6 記載の携帯電話機。

【請求項 8】 予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機であって、自端末の各種イベントが検出された時に当該イベントに関連する所定動作の発生時刻とに応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御するキャラクタ演出手段を有することを特徴とする携帯電話機。

【請求項 9】 前記キャラクタ演出手段は、前記所定動作の発生時刻が奇数の場合と偶数の場合とにおいて異なるパターンとなるように前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 8 記載の携帯電話機。

【請求項 10】 前記キャラクタ演出手段は、スケジュール機能に予め設定された特定の日付情報に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 8 または請求項 9 記載の携帯電話機。

【請求項 11】 キー操作部を含む第 1 の筐体と、前記第 1 の筐体に開閉自在に接続する第 2 の筐体と、前記第 1 及び第 2 の筐体の開閉状態を検知する検知手段とを含み、

前記キャラクタ演出手段は、前記検知手段による前記第 1 及び第 2 の筐体における開閉状態の変化の検知結果に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 8 から請求項 10 のいずれか記載の携帯電話機。

【請求項 12】 予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機のキャラクタ表示演出方法であって、自端末の各種イベントを検出するステップと、前記イベントが検出された時に当該イベントに対応する履歴情報に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップとを有することを特徴とするキャラクタ表示演出方法。

【請求項 13】 前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップは、前記履歴情報を基に前記イベントに関連する所定動作の発生時刻に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 8 記載のキャラクタ表示演出方法。

【請求項 14】 前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップは、前記履歴情報における通話先の電話番号の蓄積数に応じて異なるパターンとなるように前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 12 または請求項 13 記載のキャラクタ表示演出方法。

【請求項 15】 前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップは、前記所定動作の発生時刻が奇数の場合と偶数の場合とにおいて異なるパターンとなるように前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 13 または請求項 14 記載のキャラクタ表示演出方法。

【請求項 16】 前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップは、スケジュール機能に予め設定された特定の日付情報に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 13 から請求項 15 のいずれか記載のキャラクタ表示演出方法。

【請求項 17】 前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップは、キー操作部を含む第 1 の筐体と、前記第 1 の筐体の開閉自在に接続する第 2 の筐体とにおける開閉状態の変化の検知結果に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 12 から請求項 16 のいずれか記載のキャラクタ表示演出方法。

【請求項 18】 前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップは、電話発信後の終話ボタン押下時、電話着信の際の終話ボタン押下時、不在着信及び新着メールのうちの少なくとも一方が発生した時、前記第 1 及び第 2 の筐体の開閉状態が変化した時各々のイベント画面においてどのようなキャラクタを表示するかを発信履歴、発信時の時刻、着信履歴、着信時の時刻、前記第 1 及び第 2 の筐体の開閉状態が変化した時刻からそれぞれ判断し、決定したキャラクタを表示画面に表示することを特徴とする請求項 17 記載のキャラクタ表示演出方法。

【請求項 1 9】 予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機のキャラクタ表示演出方法であって、自端末の各種イベントを検出するステップと、前記イベントが検出された時に当該イベントに関連する所定動作の発生時刻とに応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップとを有することを特徴とするキャラクタ表示演出方法。

【請求項 2 0】 前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップは、前記所定動作の発生時刻が奇数の場合と偶数の場合とにおいて異なるパターンとなるように前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 1 9 記載のキャラクタ表示演出方法。

【請求項 2 1】 前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップは、スケジュール機能に予め設定された特定の日付情報に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 1 9 または請求項 2 0 記載のキャラクタ表示演出方法。

【請求項 2 2】 前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップは、キー操作部を含む第 1 の筐体と、前記第 1 の筐体に開閉自在に接続する第 2 の筐体とにおける開閉状態の変化の検知結果に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御することを特徴とする請求項 1 9 から請求項 2 1 のいずれか記載のキャラクタ表示演出方法。

【請求項 2 3】 予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機のキャラクタ表示演出方法のプログラムであって、コンピュータに、自端末の各種イベントを検出する処理と、前記イベントが検出された時に当該イベントに対応する履歴情報に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御する処理とを実行させるためのプログラム。

【請求項 2 4】 予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機のキャラクタ表示演出方法のプログラムであって、コンピュータに、自端末の各種イベントを検出する処理と、前記イベントが検出された時に当該イベントに関連する所定動作の発生時刻とに応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御する処理とを実行させるためのプログラム。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は携帯電話機及びそれに用いるキャラクタ表示演出方法並びにそのプログラムに関し、特に携帯電話機の電源を入れた場合等のイベント画面におけるアニメーション表示に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来、携帯電話機においては、ウェイクアップ時（携帯電話機の電源を入れた時）、着信時、発信時、メール送信時、メール受信時、折り畳み型における上側筐体と下側筐体とを開状態とした時（待ち受け時）等に、上記の各状態毎に設定されたアニメーション表示を行わせることで、それらの状態を一目で把握しやすくするような視覚効果を図っているものがある（例えば、非特許文献 1 参照）。

【 0 0 0 3 】

この場合、アニメーション表示としては、著名なキャラクタのアニメーションが採用されたり、あるいはユーザに好印象を与えるようなキャラクタのアニメーションが採用される傾向にある。

【 0 0 0 4 】

【非特許文献 1】

「待受画面を設定する」 [NTTドコモ (R)、ムーバ N 2 1 1 i 取扱説明書、機能解説編、第 1 3 9 頁、2 0 0 1 年 1 1 月]

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】

上述した従来の携帯電話機では、ウェイクアップ時、着信時、発信時、メール送信時、メール受信時等の各状態毎にアニメーション表示を設定することで、選択したキャラクタのアニメーションを表示させることが可能となっている。

【 0 0 0 6 】

しかしながら、アニメーション表示を変更させる場合にはその都度、設定操作を行わなければならない、各機器毎に搭載されたメモリの容量の制約から、それ程多くのキャラクタを記憶させておくことができず、アニメーション表示が一旦設

定されると、毎回、同一パターンアニメーション表示が実行されることとなる。

【0 0 0 7】

したがって、従来の携帯電話機では、毎回、異なるパターンアニメーション表示を実行させようとしても、そのアニメーション表示を実行させる毎に設定操作を必要とし、数多くの種類のアニメーション表示の画像を記憶させるのに、多大なメモリの記憶領域を必要とする。

【0 0 0 8】

そこで、本発明の目的は上記の問題点を解消し、メモリにおいて多大な記憶領域を占有することなくかつ設定操作を毎回行うことなく、アニメーション表示の表示パターン数を増大させることができる携帯電話機及びそれに用いるキャラクタ表示演出方法並びにそのプログラムを提供することにある。

【0 0 0 9】

【課題を解決するための手段】

本発明による携帯電話機は、予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機であって、自端末の各種イベントが検出された時に当該イベントに対応する履歴情報に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御するキャラクタ演出手段を備えている。

【0 0 1 0】

本発明による他の携帯電話機は、予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機であって、自端末の各種イベントが検出された時に当該イベントに関連する所定動作の発生時刻とに応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御するキャラクタ演出手段を備えている。

【0 0 1 1】

本発明によるキャラクタ表示演出方法は、予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機のキャラクタ表示演出方法であって、自端末の各種イベントを検出するステップと、前記イベントが検出された時に当該イベントに対応する履歴情報に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップとを備えている。

【 0 0 1 2 】

本発明による他のキャラクタ表示演出方法は、予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機のキャラクタ表示演出方法であって、自端末の各種イベントを検出するステップと、前記イベントが検出された時に当該イベントに関連する所定動作の発生時刻とに応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御するステップとを備えている。

【 0 0 1 3 】

本発明によるキャラクタ表示演出方法のプログラムは、予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機のキャラクタ表示演出方法のプログラムであって、コンピュータに、自端末の各種イベントを検出する処理と、前記イベントが検出された時に当該イベントに対応する履歴情報に応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御する処理とを実行させている。

【 0 0 1 4 】

本発明による他のキャラクタ表示演出方法のプログラムは、予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機のキャラクタ表示演出方法のプログラムであって、コンピュータに、自端末の各種イベントを検出する処理と、前記イベントが検出された時に当該イベントに関連する所定動作の発生時刻とに応じて前記キャラクタのアニメーション表示を制御する処理とを実行させている。

【 0 0 1 5 】

すなわち、本発明の携帯電話機は、電話発信後の終話ボタン押下時、電話着信の際の終話ボタン押下時、不在着信や新着メールあり時、上側筐体と下側筐体とを閉状態から開状態にした時各々のイベント画面において、どのようなキャラクタを表示するかを、発信履歴、発信時の時刻、着信履歴、着信時の時刻、筐体開閉検知機構による上側筐体と下側筐体とが開状態となった時刻からそれぞれ判断し、決定したキャラクタを表示部の表示画面に表示するというキャラクタの演出を行っている。

【 0 0 1 6 】

より具体的に説明すると、本発明の携帯電話機では、キャラクタ演出手段が発信履歴内に存在する同一番号の数（宛先毎の発信履歴内における発信件数）にて登場キャラクタの 3 タイプの何れかに、発信時の時刻（分）（奇数または偶数）にて 2 パターンの何れかにそれぞれ決める。

【 0 0 1 7 】

また、本発明の携帯電話機では、キャラクタ演出手段が着信履歴内に存在する同一番号の数（発信元毎の着信履歴内における着信件数）にて登場キャラクタの 3 タイプの何れかに、着信時の時刻（分）（奇数または偶数）にて 2 パターンの何れかにそれぞれ決める。

【 0 0 1 8 】

さらに、本発明の携帯電話機では、キャラクタ演出手段が不在着信ありの場合及び新着メールありの場合に、筐体開閉検知機構によって上側筐体と下側筐体とが閉状態から開状態へ変化したことが検知されると、キャラクタを表示し、移動機開時の時刻（分）（奇数または偶数）にてキャラクタの 2 パターンの何れかに決める。

【 0 0 1 9 】

さらにまた、本発明の携帯電話機では、キャラクタ演出手段が筐体開閉検知機構によって上側筐体と下側筐体とが閉状態から開状態へ変化したことが検知されると、キャラクタ演出を行うが、携帯電話機開時の時刻（分）によってそのキャラクタ表示における表示条件を可変する。

【 0 0 2 0 】

これによって、本発明の携帯電話機では、メモリにおいて多大な記憶領域を占有することなくかつ設定操作を毎回行うことなく、アニメーション表示の表示パターン数を増大させることが可能となる。

【 0 0 2 1 】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。図 1 は本発明の一実施例による携帯電話機の構成を示すブロック図である。図 1 において、折り畳み型携帯電話機 1 はアンテナ 1 1 と、制御部 1 2 と、メモリ 1 3 と、タイマ 1 4 と

、キー操作部 15 と、表示部 16 と、無線部 17 と、信号処理部 18 と、筐体開閉検知機構 19 と、記録媒体 20 と、スピーカ 21 と、マイク 22 とから構成され、表示部 16 を搭載する上側筐体（図示せず）と、キー操作部 15 を搭載する下側筐体（図示せず）とをヒンジ等を用いて開閉自在に接続している。

【0022】

尚、本実施例では折り畳み型携帯電話機 1 について説明するが、上側筐体と下側筐体との開状態及び閉状態における処理動作を除いて、上側筐体と下側筐体とが一体化された携帯電話機にも適用可能である。

【0023】

アンテナ 11 は電波の送受信を行い、キー操作部 15 ではユーザが各種設定や暗証番号の操作、あるいは発着信の操作を行い、表示部 16 は各種設定や暗証番号の操作、あるいは発着信の操作を行う際の操作メニューを表示する。無線部 17 は無線関係の処理を行い、信号処理部 18 は受信信号や送信信号を処理する。スピーカ 21 は受信した音声を出力し、マイク 22 は音声を入力する。

【0024】

制御部 12 はメモリ 13 とタイマ 14 とキー操作部 15 と表示部 16 と無線部 17 と信号処理部 18 とにそれぞれ接続され、それら各部の制御を行う。また、制御部 12 は上述したウェイクアップ時（携帯電話機の電源を入れた時）、着信時、発信時、メール送信時、メール受信時、折り畳み型における上側筐体と下側筐体とを開状態とした時（待ち受け時）等においてアニメーション表示を行わせるキャラクタ演出手段 121 を備えている。

【0025】

キャラクタ演出手段 121 はキャラクタ演出機能が ON に設定されている時、特定のイベント画面でキャラクタ及びコメント（メッセージ）を表示し、キャラクタ選択で選択されているキャラクタ [G I F (G r a p h i c I n t e r c h a n g e F o r m a t) アニメーション] が表示部 16 の表示画面（図示せず）に登場するものとする。

【0026】

また、キャラクタ演出手段 121 はダウンロードされた G I F アニメーション

も登場可能としている。さらに、キャラクタ演出手段 1 2 1 はキャラクタ選択で「スタンダード」が選択された場合に動作しないように設定されている。

【 0 0 2 7 】

これら上側筐体と下側筐体との開閉動作は筐体開閉検知機構 1 9 によって検知される。筐体開閉検知機構 1 9 による開閉動作の検知は、例えば磁石を用いて上側筐体と下側筐体との開動作及び閉動作を検知する方法やマイクロスイッチのオン／オフで上側筐体と下側筐体との開動作及び閉動作を検知する方法等を使用して行われる。

【 0 0 2 8 】

メモリ 1 3 は各種設定内容や暗証番号等を記憶している。タイマ 1 4 は制御部 1 2 によって起動されると、時間経過をカウントし始め、指定された時間が経過すると制御部 1 2 にタイムアップを通知する。記録媒体 2 0 は上記の各部の処理を実現するためのプログラム（コンピュータで実行可能なプログラム）を格納しており、制御部 1 2 は記録媒体 2 0 のプログラムを実行することで、上記の各部を制御する。

【 0 0 2 9 】

図 2 は図 1 のメモリ 1 3 の構成例を示す図である。図 2 は折り畳み型携帯電話機 1 において内蔵キャラクタ # 1, # 2 及びダウンロードキャラクタが表示可能な場合の構成を示しているが、内蔵キャラクタを 3 以上記憶する場合にも、その領域を確保することで、本実施例を適用することは可能である。

【 0 0 3 0 】

図 2 において、メモリ 1 3 は内蔵キャラクタ # 1（通常用）の記憶領域 1 3 1 と、内蔵キャラクタ # 1（記念日用）の記憶領域 1 3 2 と、内蔵キャラクタ # 2（通常用）の記憶領域 1 3 3 と、内蔵キャラクタ # 2（記念日用）の記憶領域 1 3 4 と、ダウンロードキャラクタの記憶領域 1 3 5 とを含んで構成されている。

【 0 0 3 1 】

図 3 は図 1 の表示部 1 6 の表示画面の一例を示す図である。図 3 において、表示部 1 6 の表示画面 1 6 1 には折り畳み型携帯電話機 1 の状態に応じたメッセージを表示するメッセージをメッセージ表示エリア（2 行分） 1 6 2 と、アニメー

ションする画像を表示する画像表示エリア 1 6 3 とが設けられている。

【 0 0 3 2 】

図 4 は図 1 のキャラクタ演出手段 1 2 1 に対する機能設定の構成を示す図である。図 4 において、キャラクタ演出手段 1 2 1 に対する上述した機能の ON / OFF の設定は「画面表示設定」にて行われる。

【 0 0 3 3 】

画面表示設定には「待ち受け画面」、「ウェイクアップ」、・・・、「キャラクタ演出」等があり、キャラクタ演出手段 1 2 1 による機能の設定は「キャラクタ演出」で行われる。この「キャラクタ演出」における機能の設定項目は、「OFF」、「キャラクタ」、「ダウンロード」の 3 項目がある。この「ダウンロード」選択後、メッセージタイプの選択があり、この選択においては「標準」、「男性」、「女性」の中から選択される。

【 0 0 3 4 】

図 5 (a) は図 2 の内蔵キャラクタ # 1 (通常用) の記憶領域 1 3 1 の記憶内容を示す図であり、図 5 (b) は内蔵キャラクタ # 1 (記念日用) の記憶領域 1 3 2 の記憶内容を示す図である。

【 0 0 3 5 】

図 5 (a) において、内蔵キャラクタ # 1 (通常用) の記憶領域 1 3 1 には画像 A 「通常時、キャラクタ # 1、パターン # 1」 (A 1) と、画像 B 「通常時、キャラクタ # 1、パターン # 1」 (B 2) と、画像 C 「通常時、キャラクタ # 1、パターン # 1」 (C 3) と、画像 D 「アラート時、キャラクタ # 1、パターン # 1」 (D 4) と、画像 A 「通常時、キャラクタ # 1、パターン # 2」 (A 5) と、画像 B 「通常時、キャラクタ # 1、パターン # 2」 (B 6) と、画像 C 「通常時、キャラクタ # 1、パターン # 2」 (C 7) と、画像 D 「アラート時、キャラクタ # 1、パターン # 2」 (D 8) とが格納されている。尚、図示していないが、内蔵キャラクタ # 2 (通常用) の記憶領域 1 3 3 には内蔵キャラクタ # 1 (通常用) の記憶領域 1 3 1 と同じタイプのデータが格納されている。

【 0 0 3 6 】

図 5 (b) において、内蔵キャラクタ # 1 (記念日用) の記憶領域 1 3 2 には

画像A「通常時、キャラクタ#1、パターン#3（記念日限定）」（A9）と、画像B「通常時、キャラクタ#1、パターン#3（記念日限定）」（B10）と、画像C「通常時、キャラクタ#1、パターン#3（記念日限定）」（C11）と、画像D「アラート時、キャラクタ#1、パターン#3（記念日限定）」（D12）とが格納されている。尚、図示していないが、内蔵キャラクタ#2（記念日用）の記憶領域134には内蔵キャラクタ#1（記念日用）の記憶領域132と同じタイプのデータが格納されている。

【0037】

図6は図2のダウンロードキャラクタの記憶領域135の記憶内容を示す図である。図6において、ダウンロードキャラクタの記憶領域135には画像A「1コマ目」（DL-A）、画像B「2コマ目」（DL-B）、画像C「3コマ目」（DL-C）、画像D「4コマ目」（DL-D）等が格納されている。

【0038】

図7～図9はそれぞれ図3の表示画面161の表示例を示す図であり、図10（a）～（e）は図1のキャラクタ演出手段121における「発信→通話→終了時」のパターン振り分け条件を示す図であり、図11（a）～（e）は図1のキャラクタ演出手段121における「着信→通話→終了時」のパターン振り分け条件を示す図であり、図12（a）～（e）は図1のキャラクタ演出手段121における「不在着信、新着メール」の場合のパターン振り分け条件を示す図である。これら図1～図12を参照してキャラクタ演出手段121によるキャラクタ演出について説明する。

【0039】

キャラクタ演出手段121は内蔵キャラクタが選択されている場合、図5に示すように、キャラクタ#1用にパターン#1、パターン#2、パターン#3（記念日用）があり、さらにパターンの中には4タイプのキャラクタが用意されている。キャラクタ#2についても、キャラクタ#1と同様に、「3パターン×4タイプ」が用意されている。

【0040】

また、キャラクタ演出手段121は各場面毎にメッセージも表示するようにな

っており、これらを発着信履歴の件数や携帯電話機上の時刻（タイマ 1 4 の時刻）によって変化させて登場させている。

【 0 0 4 1 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 はダウンロードキャラクタが選択されている場合、ダウンロードした G I F アニメーションを 4 分割して使用しており、発着信履歴の件数や携帯電話機上の時刻（タイマ 1 4 の時刻）によって変化させて登場させている。

【 0 0 4 2 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 は、（１）電話発信後の終話ボタン押下時、（２）電話着信の際の終話ボタン押下時、（３）不在着信や新着メールあり時、（４）上側筐体と下側筐体とを閉状態から開状態にした時各々のイベント画面でキャラクタの演出を行う。

【 0 0 4 3 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 はスケジュール機能で記念日設定に該当する日の場合、特定のキャラクタ〔内蔵キャラクタ # 1（記念日用）の記憶領域 1 3 2 及び内蔵キャラクタ # 2（記念日用）の記憶領域 1 3 4 に格納しているキャラクタ〕を表示する。

【 0 0 4 4 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 はそれぞれ、資料の割当表（図 1 0 ～図 1 2 参照）にしたがったキャラクタ及びメッセージを表示する。このキャラクタ演出はエンキー押下、5 秒タイムアウトでぬけるものとする。

【 0 0 4 5 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 によってキャラクタが表示されている場合にはメニューボタンやデジットボタンが押下されても、メニュー画面等には移行しない。また、キャラクタ及びコメントは図 3 に示すような表示位置、つまりメッセージ表示エリア 1 6 2 及び画像表示エリア 1 6 3 に表示される。

【 0 0 4 6 】

以下、上記の（１）～（４）の各イベント画面でのキャラクタの演出各々の表示方法について説明する。以下の説明では各イベント画面でのキャラクタに、図

5 に示す内蔵キャラクタ # 1（通常用）の記憶領域 1 3 1 及び内蔵キャラクタ # 1（記念日用）の記憶領域 1 3 2 に記憶された画像、図 6 に示すダウンロードキャラクタの記憶領域 1 3 5 に記憶された画像等を用いるものとする。

【 0 0 4 7 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 は電話発信後の終話ボタン押下時、待ち受け画面に戻る際に、キャラクタを表示画面 1 6 1 の画像表示エリア 1 6 3 に表示する。キャラクタ演出手段 1 2 1 はどのようなキャラクタを表示するかを、発信履歴、発信時の時刻から判断する。

【 0 0 4 8 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 は発信履歴内に存在する同一番号の数（宛先毎の発信履歴内における発信件数）にて登場キャラクタの 3 タイプの何れかに、発信時の時刻（分）（奇数または偶数）にて 2 パターンの何れかにそれぞれ決める。

【 0 0 4 9 】

すなわち、図 1 0 に示すように、内蔵キャラクタ # 1 が選択され、通常時であれば、宛先毎の発信履歴内における発信件数が 1 ～ 2 件の場合には、発信時の時刻（分）が奇数であれば「A 1」、偶数であれば「A 5」にそれぞれ決定される。宛先毎の発信履歴内における発信件数が 3 ～ 5 件の場合には、発信時の時刻（分）が奇数であれば「B 2」、偶数であれば「B 6」にそれぞれ決定される。宛先毎の発信履歴内における発信件数が 6 件以上の場合には、発信時の時刻（分）が奇数であれば「C 3」、偶数であれば「C 7」にそれぞれ決定される。上記の場合には、メッセージがいずれも対応する固定のメッセージとなる。

【 0 0 5 0 】

内蔵キャラクタ # 1 が選択され、スケジュール機能で記念日設定に該当する日であれば、宛先毎の発信履歴内における発信件数が 1 ～ 2 件の場合には、発信時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「A 9」に決定される。宛先毎の発信履歴内における発信件数が 3 ～ 5 件の場合には、発信時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「B 1 0」に決定される。宛先毎の発信履歴内における発信件数が 6 件以上の場合には、発信時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「C 1 1」に決定される。上記の場合には、メッセージがいずれも対応する固定のメッセー

ジとなる。

【 0 0 5 1 】

また、内蔵キャラクタ # 2 が選択され、通常時であれば、宛先毎の発信履歴内における発信件数が 1 ～ 2 件の場合には、発信時の時刻（分）が奇数であれば「A 1 3」、偶数であれば「A 1 7」にそれぞれ決定される。宛先毎の発信履歴内における発信件数が 3 ～ 5 件の場合には、発信時の時刻（分）が奇数であれば「B 1 4」、偶数であれば「B 1 8」にそれぞれ決定される。宛先毎の発信履歴内における発信件数が 6 件以上の場合には、発信時の時刻（分）が奇数であれば「C 1 5」、偶数であれば「C 1 9」にそれぞれ決定される。上記の場合には、メッセージがいずれも対応する固定のメッセージとなる。

【 0 0 5 2 】

内蔵キャラクタ # 2 が選択され、スケジュール機能で記念日設定に該当する日であれば、宛先毎の発信履歴内における発信件数が 1 ～ 2 件の場合には、発信時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「A 2 1」に決定される。宛先毎の発信履歴内における発信件数が 3 ～ 5 件の場合には、発信時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「B 2 2」に決定される。宛先毎の発信履歴内における発信件数が 6 件以上の場合には、発信時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「C 2 3」に決定される。上記の場合には、メッセージがいずれも対応する固定のメッセージとなる。

【 0 0 5 3 】

さらに、ダウンロードキャラクタが選択されていれば、宛先毎の発信履歴内における発信件数が 1 ～ 2 件の場合には、発信時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「DL-A」に決定される。宛先毎の発信履歴内における発信件数が 3 ～ 5 件の場合には、発信時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「DL-B」に決定される。宛先毎の発信履歴内における発信件数が 6 件以上の場合には、発信時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「DL-C」に決定される。上記の場合には、メッセージがいずれも対応する固定のメッセージとなる。

【 0 0 5 4 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 は電話着信後の終話ボタン押下時、待ち受け画面に

戻る際に、キャラクタを表示画面 1 6 1 の画像表示エリア 1 6 3 に表示する。キャラクタ演出手段 1 2 1 はどのようなキャラクタを表示するかを、着信履歴、着信時の時刻から判断する。

【 0 0 5 5 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 は着信履歴内に存在する同一番号の数（発信元毎の着信履歴内における着信件数）にて登場キャラクタの 3 タイプの何れかに、着信時の時刻（分）（奇数または偶数）にて 2 パターンの何れかにそれぞれ決める。

【 0 0 5 6 】

この電話着信後の終話ボタン押下時、待ち受け画面に戻る際に、表示画面 1 6 1 の画像表示エリア 1 6 3 に表示されるキャラクタは、図 1 1 に示すように、上記の電話発信後のキャラクタ（図 1 0 に示すキャラクタ）と同様である。

【 0 0 5 7 】

上述したキャラクタ及びメッセージは、図 7 に示すように、電話発信後及び電話着信後に表示画面 1 6 1 のメッセージ表示エリア 1 6 2 及び画像表示エリア 1 6 3 に表示される。図 7 において、メッセージとしては、キャラクタとともに、「通話相手の名前又は電話番号」、「通話時間 △△分□□秒でした。」が表示される。この場合、メッセージとしてはキャラクタの種別（「標準」、「男性」、「女性」等に応じた種別の違い等）に応じて語尾変化させたり、あるいは方言を用いたりすることが可能となっている。また、非通知（非通知設定、通知不可、公衆電話）の場合には通話相手の情報を表示せず、通話時間のみを表示させる。

【 0 0 5 8 】

尚、上述した電話発信後に待ち受け画面に戻る際、及び電話着信後に待ち受け画面に戻る際にはそれぞれ網側からの情報表示を優先とするため、メッセージ表示、度数表示時、理由表示等の表示を行う場合、キャラクタ演出を行わない。

【 0 0 5 9 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 は不在着信ありの場合及び新着メールありの場合に、筐体開閉検知機構 1 9 によって上側筐体と下側筐体とが閉状態から開状態へ変化したことが検知されると、キャラクタを表示し、携帯電話機開時の時刻（分）

（奇数または偶数）にてキャラクタの 2 パターンの何れかに決める。但し、キャラクタ演出手段 1 2 1 は上側筐体と下側筐体とが開状態で、不在着信または新着メールがあってもキャラクタを表示しない。

【 0 0 6 0 】

すなわち、図 1 2 に示すように、内蔵キャラクタ # 1 が選択され、通常時であれば、携帯電話機の状態が「不在着信あり」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数であれば「D 4」、偶数であれば「D 8」にそれぞれ決定される。「新着メールあり」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数であれば「D 4」、偶数であれば「D 8」にそれぞれ決定される。「不在着信あり及び新着メールありの両方」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数であれば「D 4」、偶数であれば「D 8」にそれぞれ決定される。

【 0 0 6 1 】

内蔵キャラクタ # 1 が選択され、スケジュール機能で記念日設定に該当する日であれば、携帯電話機の状態が「不在着信あり」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「D 1 2」に決定される。「新着メールあり」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「D 1 2」に決定される。「不在着信あり及び新着メールありの両方」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「D 1 2」に決定される。

【 0 0 6 2 】

また、内蔵キャラクタ # 2 が選択され、通常時であれば、携帯電話機の状態が「不在着信あり」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数であれば「D 1 6」、偶数であれば「D 2 0」にそれぞれ決定される。「新着メールあり」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数であれば「D 1 6」、偶数であれば「D 2 0」にそれぞれ決定される。「不在着信あり及び新着メールありの両方」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数であれば「D 1 6」、偶数であれば「D 2 0」にそれぞれ決定される。

【 0 0 6 3 】

内蔵キャラクタ # 2 が選択され、スケジュール機能で記念日設定に該当する日であれば、携帯電話機の状態が「不在着信あり」の場合には携帯電話機開時の時

刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「D 2 4」に決定される。「新着メールあり」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「D 2 4」に決定される。「不在着信あり及び新着メールありの両方」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「D 2 4」に決定される。

【 0 0 6 4 】

さらに、ダウンロードキャラクタが選択されていれば、携帯電話機の状態が「不在着信あり」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「DL-D」に決定される。「新着メールあり」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「DL-D」に決定される。「不在着信あり及び新着メールありの両方」の場合には携帯電話機開時の時刻（分）が奇数、偶数に関係なく、「DL-D」に決定される。

【 0 0 6 5 】

上述したキャラクタ及びメッセージは、図 8 に示すように、電話発信後及び電話着信後に表示画面 1 6 1 のメッセージ表示エリア 1 6 2 及び画像表示エリア 1 6 3 に表示される。図 8 において、メッセージとしては、キャラクタとともに、「6 件 電話あったよ」、「メール来ているよ」の 2 つのメッセージのいずれかが表示される。「不在着信あり」、「新着メールあり」の両方の場合には、両方のメッセージを同時に表示する。

【 0 0 6 6 】

この場合、メッセージとしてはキャラクタの種別（「標準」、「男性」、「女性」等に応じた種別の違い等）に応じて語尾変化させたり、あるいは方言を用いたり、メッセージ内容を変えたりすることが可能となっている。

【 0 0 6 7 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 は筐体開閉検知機構 1 9 によって上側筐体と下側筐体とが閉状態から開状態へ変化したことが検知されると、キャラクタ演出を行うが、携帯電話機開時の時刻（分）によってそのキャラクタ表示における表示条件が異なる。この場合には、図 9 に示すように、日時「4 月 1 1 日 1 2 : 3 4」、メッセージ「お待ちしておりました」、キャラクタが表示される。但し、キャラクタは携帯電話機開時に毎回表示するのではなく、表示しない時間帯も存在す

る。この表示に関しては分の 1 0 の位及び 1 の位でランダム性を持たしている。

【 0 0 6 8 】

上述した各キャラクタ表示時の優先順位は、「不在着信、新着メールがあった時」>「上側筐体と下側筐体とが閉状態から開状態へ変化した時」>「通常の開閉時」となり、その優先順位に基づいてキャラクタのアニメーションが行われる。但し、オート表示や優先コール設定時には、上側筐体と下側筐体とが閉状態から開状態へ変化した時のキャラクタ演出を行わない。

【 0 0 6 9 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 はスケジュール機能で記念日設定に該当する日の場合、特定のキャラクタを表示し、ダウンロード指定されていても、記念日には特定の内蔵キャラクタを表示する。

【 0 0 7 0 】

また、キャラクタ演出手段 1 2 1 はサウンドモード設定中でもキャラクタ演出を行う。これは 5 秒間の表示であるためである。キャラクタ演出手段 1 2 1 はバイリンガルモード時に、英語ワーディングのメッセージを表示する。上述したメッセージはブラウザでもキャラクタ演出が行われるので、情報を通知する必要があるために表示される。

【 0 0 7 1 】

図 1 3 ～図 1 5 は図 1 のキャラクタ演出手段 1 2 1 による演出キャラクタ表示判定処理を示すフローチャートである。これら図 1 ～図 1 5 を参照してキャラクタ演出手段 1 2 1 によるキャラクタ演出について説明する。尚、図 1 3 ～図 1 5 に示す処理は制御部 1 2 が記録媒体 2 0 のプログラムを実行することで実現される。

【 0 0 7 2 】

キャラクタ演出手段 1 2 1 は発信処理や着信処理が行われたこと、不在着信ありの場合及び新着メールありの場合に筐体開閉検知機構 1 9 にて上側筐体と下側筐体とが閉状態から開状態へ変化したことが検知されたこと、通常時に筐体開閉検知機構 1 9 にて上側筐体と下側筐体とが閉状態から開状態へ変化したことが検知されたこと等が制御部 1 2 で検出された時に起動され、下記の演出キャラクタ

表示判定処理を実行する。

【0073】

キャラクタ演出手段121は演出キャラクタ表示判定を行う際に、キャラクタ選択の判定を行い（図13ステップS1）、スタンダードが選択されれば、キャラクタ演出表示を無効とする（図13ステップS3）。

【0074】

また、キャラクタ演出手段121はキャラクタが選択されれば、画面表示設定でのキャラクタ演出の判定を行い（図13ステップS2）、OFF設定であれば、キャラクタ演出表示を無効とする（図13ステップS3）。

【0075】

キャラクタ演出手段121は画面表示設定でのキャラクタ演出が内蔵キャラクタであれば、「スケジュール機能における記念日設定＝移動機の時計の日付」か否かを判定する（図13ステップS4）。

【0076】

キャラクタ演出手段121は「スケジュール機能における記念日設定＝移動機の時計の日付」でなければ、キャラクタ選択の判定でキャラクタ#1が選択されていれば（図13ステップS5）、キャラクタ演出表示を有効とし（図13ステップS6）、キャラクタ演出画像を通常用キャラクタ#1とし（図13ステップS7）、キャラクタ演出メッセージをキャラクタ#1用メッセージとする（図13ステップS8）。

【0077】

キャラクタ演出手段121はキャラクタ選択の判定でキャラクタ#2が選択されていれば（図13ステップS5）、キャラクタ演出表示を有効とし（図13ステップS9）、キャラクタ演出画像を通常用キャラクタ#2とし（図13ステップS10）、キャラクタ演出メッセージをキャラクタ#2用メッセージとする（図13ステップS11）。

【0078】

キャラクタ演出手段121は画面表示設定でのキャラクタ演出がオリジナルイメージ[DL（ダウンロード）キャラ]であれば、「スケジュール機能における

記念日設定＝移動機の時計の日付」か否かを判定する（図14ステップS12）

。

【0079】

キャラクタ演出手段121は「スケジュール機能における記念日設定＝移動機の時計の日付」でなければ、キャラクタ演出表示を有効とし（図14ステップS13）、キャラクタ演出画像をダウンロードキャラクタとする（図14ステップS14）。

【0080】

続いて、キャラクタ演出手段121は画面表示設定でのキャラクタ演出オリジナルイメージ用メッセージの判定を行い（図14ステップS15）、パターン#1であれば、キャラクタ演出メッセージをダウンロードキャラクタ用パターン#1とし（図14ステップS16）、パターン#2であれば、キャラクタ演出メッセージをダウンロードキャラクタ用パターン#2とし（図14ステップS17）、パターン#3であれば、キャラクタ演出メッセージをダウンロードキャラクタ用パターン#3とする（図14ステップS18）。

【0081】

キャラクタ演出手段121は上記のステップS4，S12において、「スケジュール機能における記念日設定＝移動機の時計の日付」であれば、キャラクタ選択の判定でキャラクタ#1と判定されると（図15ステップS19）、キャラクタ演出表示を有効とし（図15ステップS20）、キャラクタ演出画像を記念日用キャラクタ#1とし（図15ステップS21）、キャラクタ演出メッセージをキャラクタ#1用メッセージとする（図13ステップS8）。

【0082】

キャラクタ演出手段121はキャラクタ選択の判定でキャラクタ#2と判定されると（図15ステップS19）、キャラクタ演出表示を有効とし（図15ステップS22）、キャラクタ演出画像を記念日用キャラクタ#2とし（図15ステップS23）、キャラクタ演出メッセージをキャラクタ#2用メッセージとする（図13ステップS11）。

【0083】

このように、本実施例では、キャラクタ演出手段 1 2 1 が発信履歴内に存在する同一番号の数（宛先毎の発信履歴内における発信件数）にて登場キャラクタの 3 タイプの何れかに、発信時の時刻（分）（奇数または偶数）にて 2 パターンの何れかにそれぞれ決めることによって、メモリ 1 3 において多大な記憶領域を占有することなくかつ設定操作を毎回行うことなく、アニメーション表示の表示パターン数を増大させることができる。

【 0 0 8 4 】

また、本実施例では、キャラクタ演出手段 1 2 1 が着信履歴内に存在する同一番号の数（発信元毎の着信履歴内における着信件数）にて登場キャラクタの 3 タイプの何れかに、着信時の時刻（分）（奇数または偶数）にて 2 パターンの何れかにそれぞれ決めることによって、メモリ 1 3 において多大な記憶領域を占有することなくかつ設定操作を毎回行うことなく、アニメーション表示の表示パターン数を増大させることができる。

【 0 0 8 5 】

さらに、本実施例では、キャラクタ演出手段 1 2 1 が不在着信ありの場合及び新着メールありの場合に、筐体開閉検知機構 1 9 によって上側筐体と下側筐体とが閉状態から開状態へ変化したことが検知されると、キャラクタを表示し、移動機開時の時刻（分）（奇数または偶数）にてキャラクタの 2 パターンの何れかに決めることによって、メモリ 1 3 において多大な記憶領域を占有することなくかつ設定操作を毎回行うことなく、アニメーション表示の表示パターン数を増大させることができる。

【 0 0 8 6 】

さらにまた、本実施例では、キャラクタ演出手段 1 2 1 が筐体開閉検知機構 1 9 によって上側筐体と下側筐体とが閉状態から開状態へ変化したことが検知されると、キャラクタ演出を行うが、携帯電話機開時の時刻（分）によってそのキャラクタ表示における表示条件を可変することによって、メモリ 1 3 において多大な記憶領域を占有することなくかつ設定操作を毎回行うことなく、アニメーション表示の表示パターン数を増大させることができる。

【 0 0 8 7 】

尚、本実施例では折り畳み型携帯電話機 1 について述べたが、上側筐体と下側筐体とが一体化された携帯電話機、あるいは左右に開閉される折り畳み型携帯電話機等にも適用可能である。また、本実施例では履歴情報と発生時刻との組合わせてキャラクタの決定を行う方法について述べたが、履歴情報のみを基にキャラクタの決定を行っても、発生時刻のみを基にキャラクタの決定を行ってもよく、これに限定されない。

【 0 0 8 8 】

【発明の効果】

以上説明したように本発明の携帯電話機は、予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機において、自端末の各種イベントが検出された時に当該イベントに対応する履歴情報に応じてキャラクタのアニメーション表示を制御することによって、メモリにおいて多大な記憶領域を占有することなくかつ設定操作を毎回行うことなく、アニメーション表示の表示パターン数を増大させることができるという効果が得られる。

【 0 0 8 9 】

本発明の他の携帯電話機は、予め記憶された複数のキャラクタのいずれかをアニメーション表示可能な携帯電話機において、自端末の各種イベントが検出された時に当該イベントに関連する所定動作の発生時刻とに応じてキャラクタのアニメーション表示を制御することによって、メモリにおいて多大な記憶領域を占有することなくかつ設定操作を毎回行うことなく、アニメーション表示の表示パターン数を増大させることができるという効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施例による携帯電話機の構成を示すブロック図である。

【図 2】

図 1 のメモリの構成例を示す図である。

【図 3】

図 1 の表示部の表示画面の一例を示す図である。

【図 4】

図 1 のキャラクタ演出手段に対する機能設定の構成を示す図である。

【図 5】

(a) は図 2 の内蔵キャラクタ # 1 (通常用) の記憶領域の記憶内容を示す図、(b) は内蔵キャラクタ # 1 (記念日用) の記憶領域の記憶内容を示す図である。

【図 6】

図 2 のダウンロードキャラクタの記憶領域の記憶内容を示す図である。

【図 7】

図 3 の表示画面の表示例を示す図である。

【図 8】

図 3 の表示画面の表示例を示す図である。

【図 9】

図 3 の表示画面の表示例を示す図である。

【図 1 0】

(a) ~ (e) は図 1 のキャラクタ演出手段における「発信→通話→終了時」のパターン振り分け条件を示す図である。

【図 1 1】

(a) ~ (e) は図 1 のキャラクタ演出手段における「着信→通話→終了時」のパターン振り分け条件を示す図である。

【図 1 2】

(a) ~ (e) は図 1 のキャラクタ演出手段における「不在着信、新着メール」の場合のパターン振り分け条件を示す図である。

【図 1 3】

図 1 のキャラクタ演出手段による演出キャラクタ表示判定処理を示すフローチャートである。

【図 1 4】

図 1 のキャラクタ演出手段による演出キャラクタ表示判定処理を示すフローチャートである。

【図 1 5】

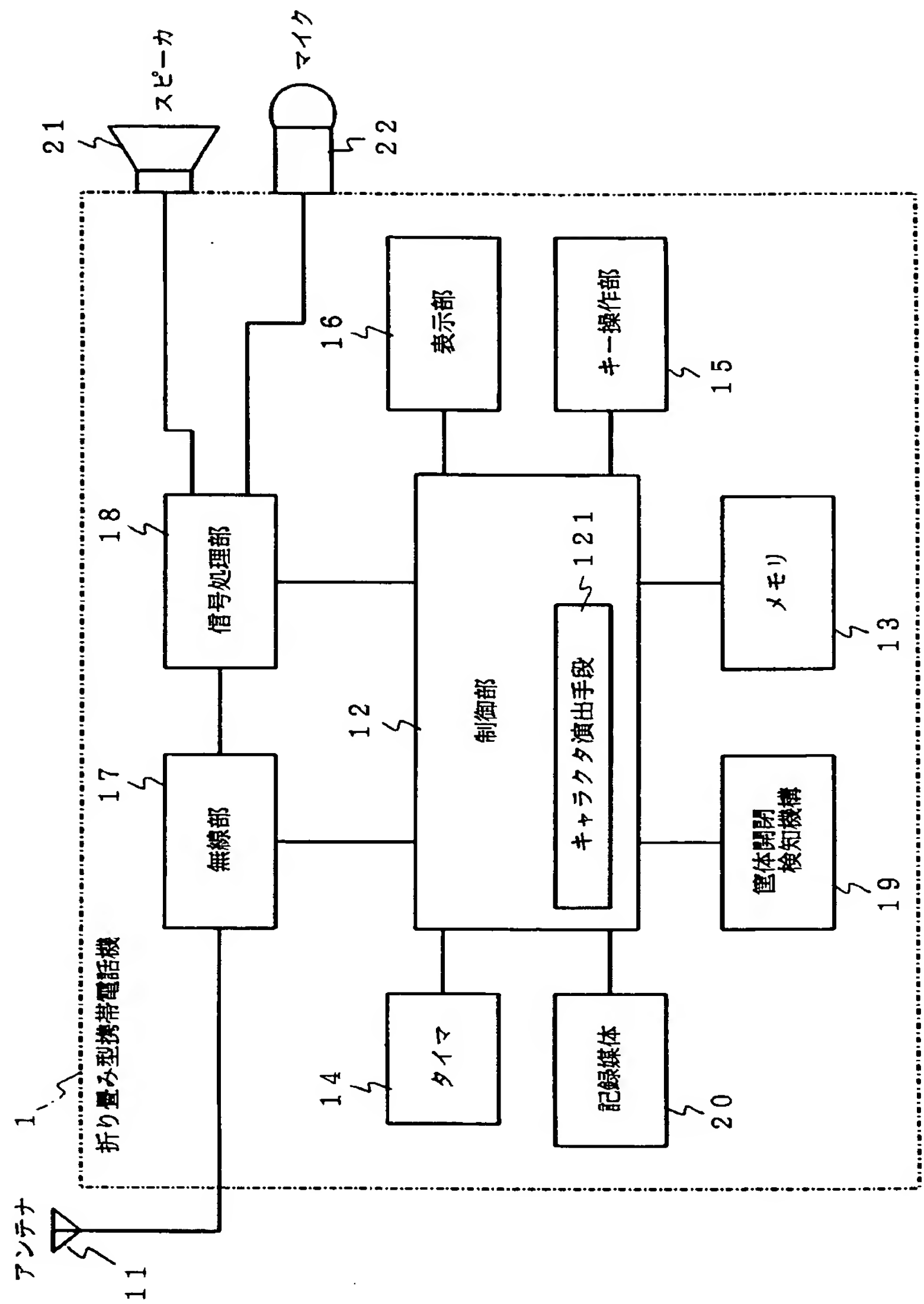
図 1 のキャラクタ演出手段による演出キャラクタ表示判定処理を示すフローチャートである。

【符号の説明】

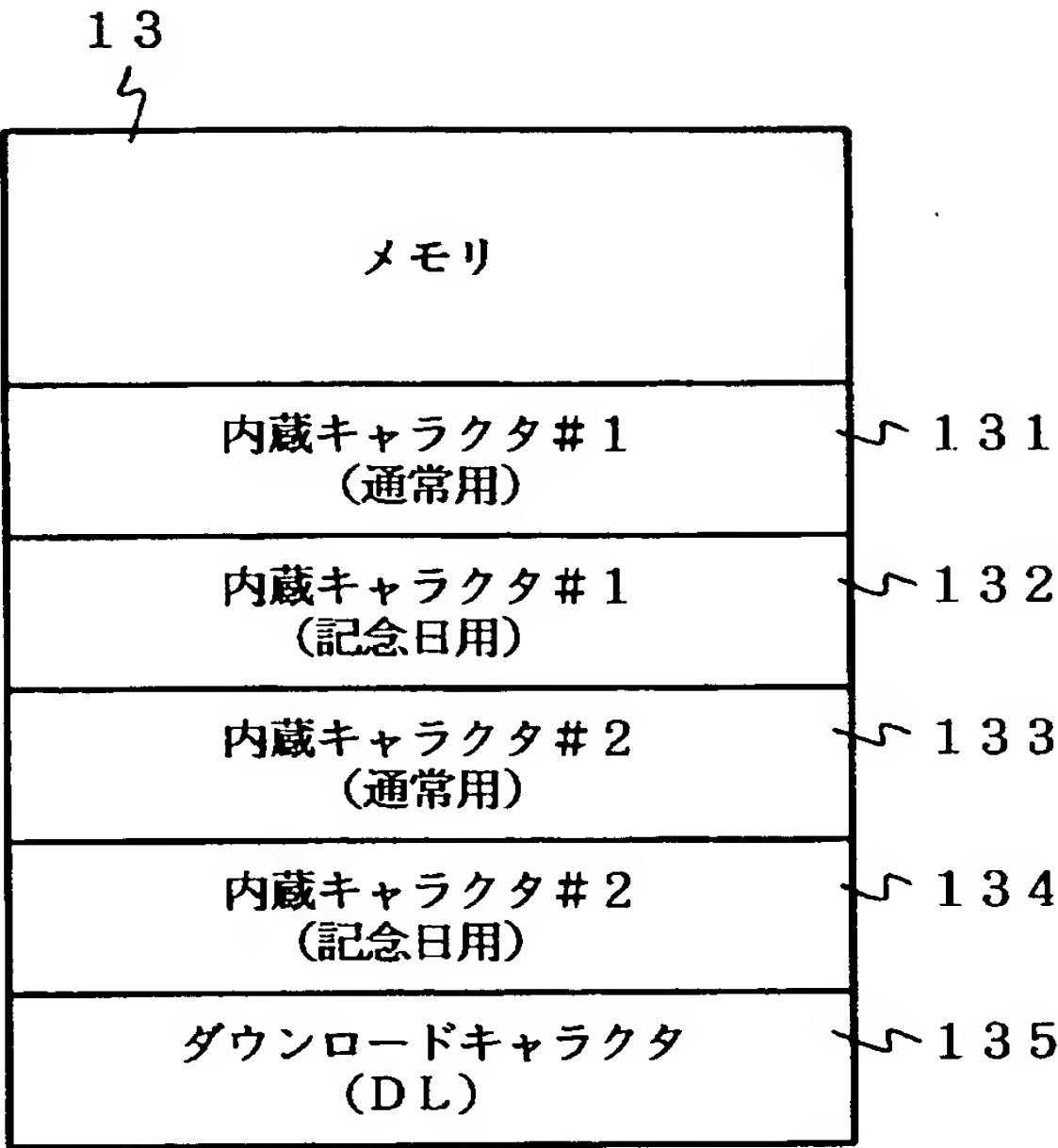
- 1 折り畳み型携帯電話機
 - 1 1 アンテナ
 - 1 2 制御部
 - 1 3 メモリ
 - 1 4 タイマ
 - 1 5 キー操作部
 - 1 6 表示部
 - 1 7 無線部
 - 1 8 信号処理部
 - 1 9 筐体開閉検知機構
- 2 0 記録媒体
 - 2 1 スピーカ
 - 2 2 マイク
- 1 3 1 内蔵キャラクタ # 1 (通常用) の記憶領域
- 1 3 2 内蔵キャラクタ # 1 (記念日用) の記憶領域
- 1 3 3 内蔵キャラクタ # 2 (通常用) の記憶領域
- 1 3 4 内蔵キャラクタ # 2 (記念日用) の記憶領域
- 1 3 5 ダウンロードキャラクタの記憶領域
- 1 6 1 表示画面
- 1 6 2 メッセージをメッセージ表示エリア
- 1 6 3 画像表示エリア

【書類名】 図面

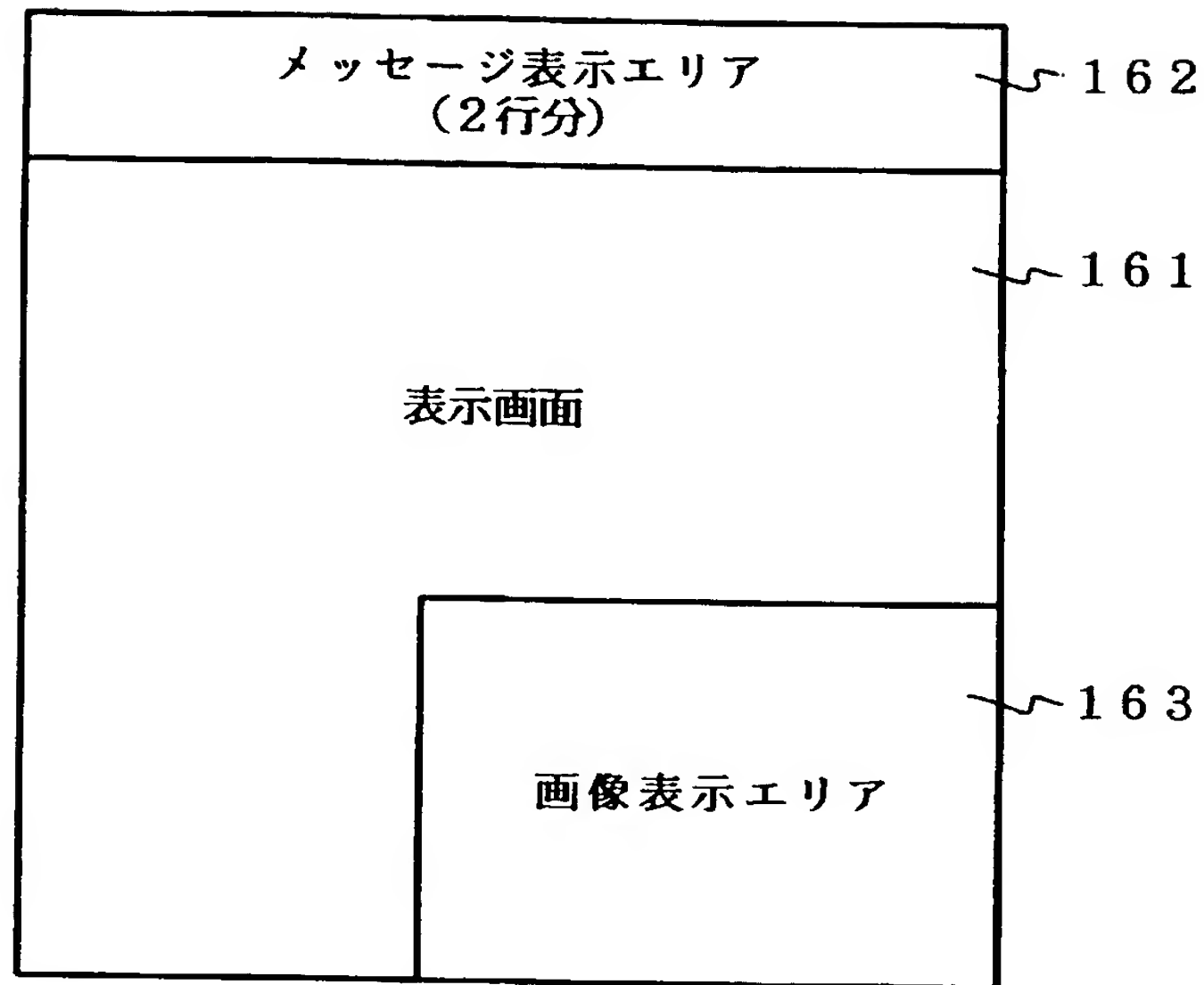
【図 1】



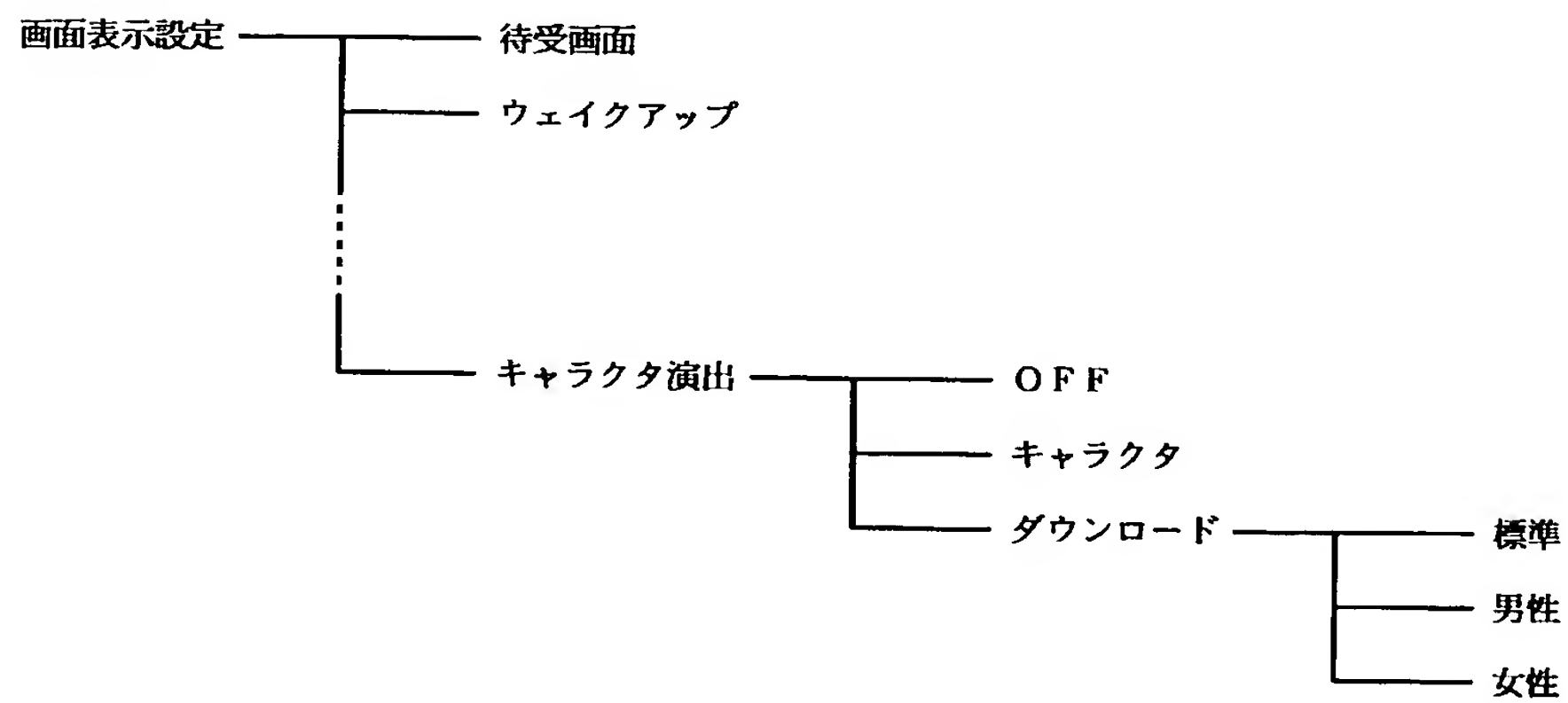
【図 2】



【図 3】

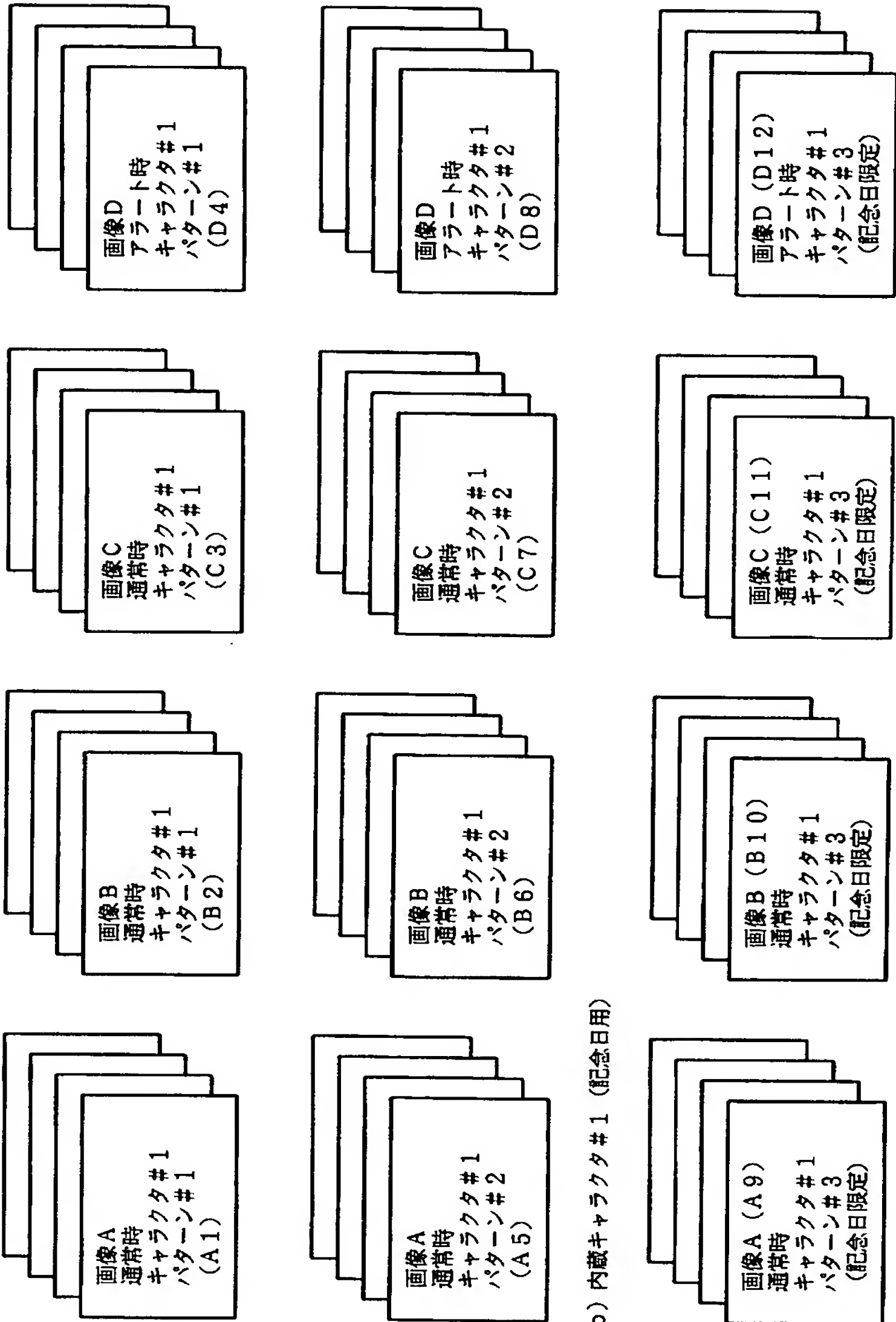


【図 4】

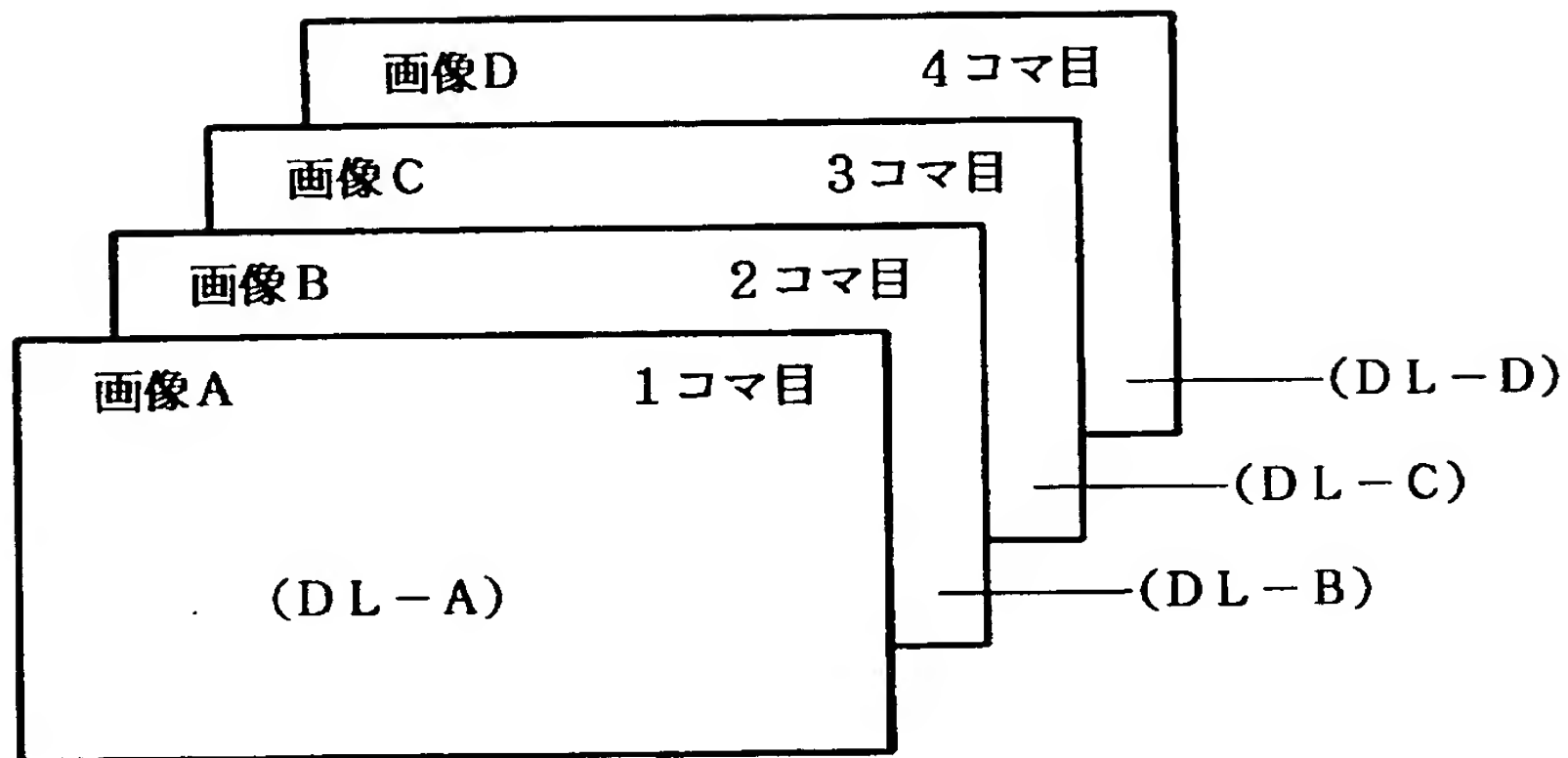


【図 5】

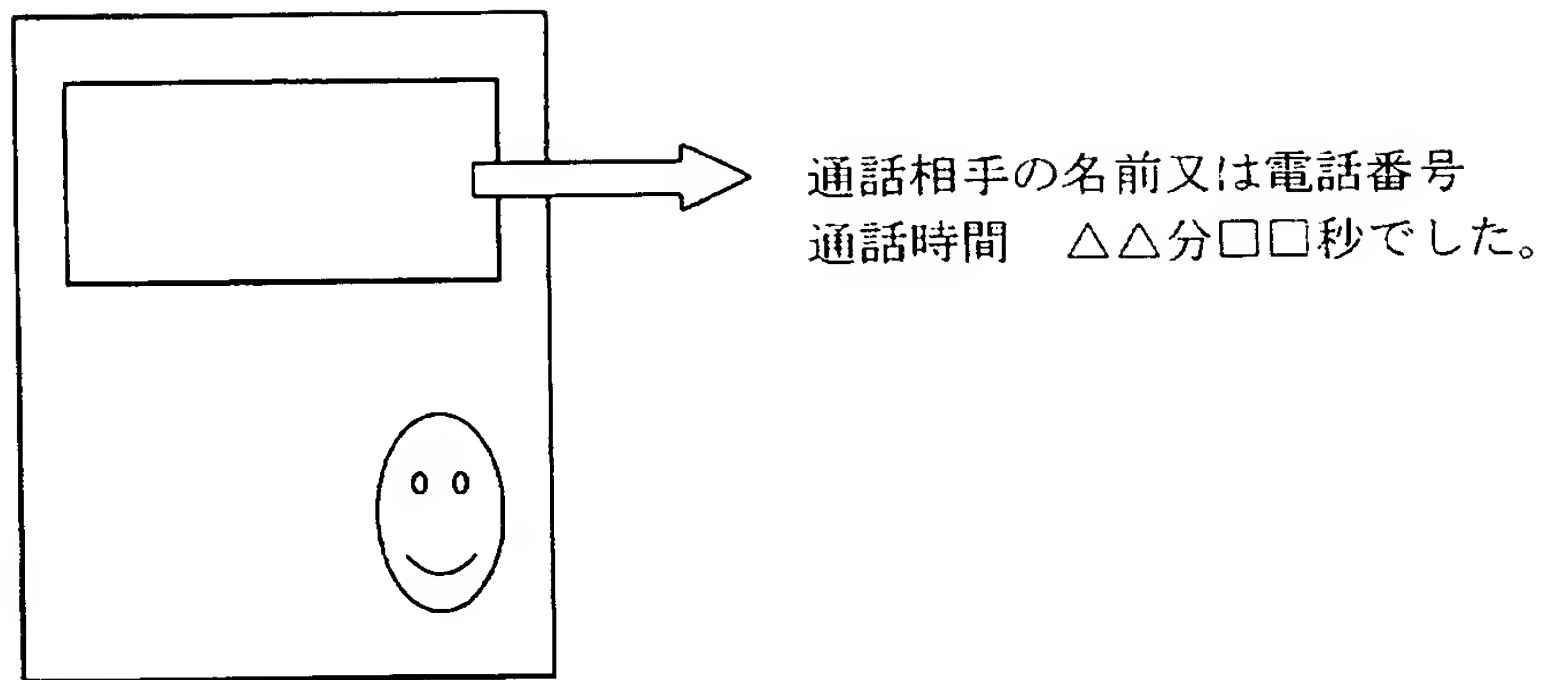
(a) 内蔵キャラクター#1 (通常用)



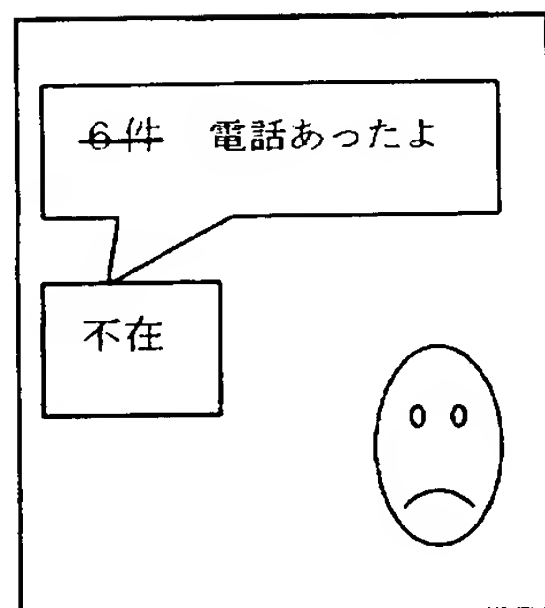
【図 6】



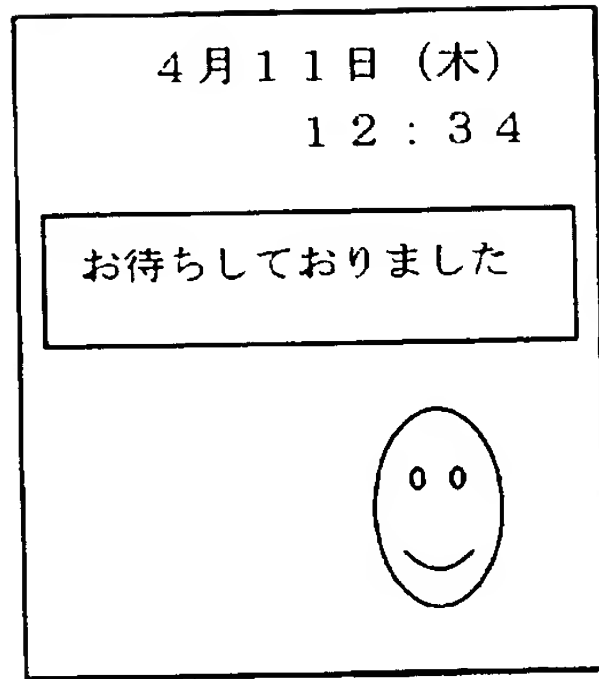
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

(a) 内蔵キャラクタ#1 (通常用)

宛先毎の発信履歴内 における発信件数	発信時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
1～2件	A1	A5	固定
3～5件	B2	B6	固定
6件以上	C3	C7	固定

(b) 内蔵キャラクタ#1 (記念日用)

宛先毎の発信履歴内 における発信件数	発信時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
1～2件	A9	A9	固定
3～5件	B10	B10	固定
6件以上	C11	C11	固定

(c) 内蔵キャラクタ#2 (通常用)

宛先毎の発信履歴内 における発信件数	発信時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
1～2件	A13	A17	固定
3～5件	B14	B18	固定
6件以上	C15	C19	固定

(d) 内蔵キャラクタ#2 (記念日用)

宛先毎の発信履歴内 における発信件数	発信時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
1～2件	A21	A21	固定
3～5件	B22	B22	固定
6件以上	C23	C23	固定

(e) ダウンロードキャラクタ

宛先毎の発信履歴内 における発信件数	発信時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
1～2件	DL-A	DL-A	固定
3～5件	DL-B	DL-B	固定
6件以上	DL-C	DL-C	固定

【図 11】

(a) 内蔵キャラクタ#1 (通常用)

発信元毎の着信履歴 内における発信件数	着信時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
1～2件	A1	A5	固定
3～5件	B2	B6	固定
6件以上	C3	C7	固定

(b) 内蔵キャラクタ#1 (記念日用)

発信元毎の着信履歴 内における発信件数	着信時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
1～2件	A9	A9	固定
3～5件	B10	B10	固定
6件以上	C11	C11	固定

(c) 内蔵キャラクタ#2 (通常用)

発信元毎の着信履歴 内における発信件数	着信時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
1～2件	A13	A17	固定
3～5件	B14	B18	固定
6件以上	C15	C19	固定

(d) 内蔵キャラクタ#2 (記念日用)

発信元毎の着信履歴 内における発信件数	着信時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
1～2件	A21	A21	固定
3～5件	B22	B22	固定
6件以上	C23	C23	固定

(e) ダウンロードキャラクタ

発信元毎の着信履歴 内における発信件数	着信時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
1～2件	DL-A	DL-A	固定
3～5件	DL-B	DL-B	固定
6件以上	DL-C	DL-C	固定

【図 12】

(a) 内蔵キャラクタ#1 (通常用)

携帯電話機の状態	携帯電話機静時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
不在着信あり	D4	D8	固定
新着メールあり	D4	D8	固定
着信及びメールあり	D4	D8	固定

(b) 内蔵キャラクタ#1 (記念日用)

携帯電話機の状態	携帯電話機静時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
不在着信あり	D12	D12	固定
新着メールあり	D12	D12	固定
着信及びメールあり	D12	D12	固定

(c) 内蔵キャラクタ#2 (通常用)

携帯電話機の状態	携帯電話機静時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
不在着信あり	D16	D20	固定
新着メールあり	D16	D20	固定
着信及びメールあり	D16	D20	固定

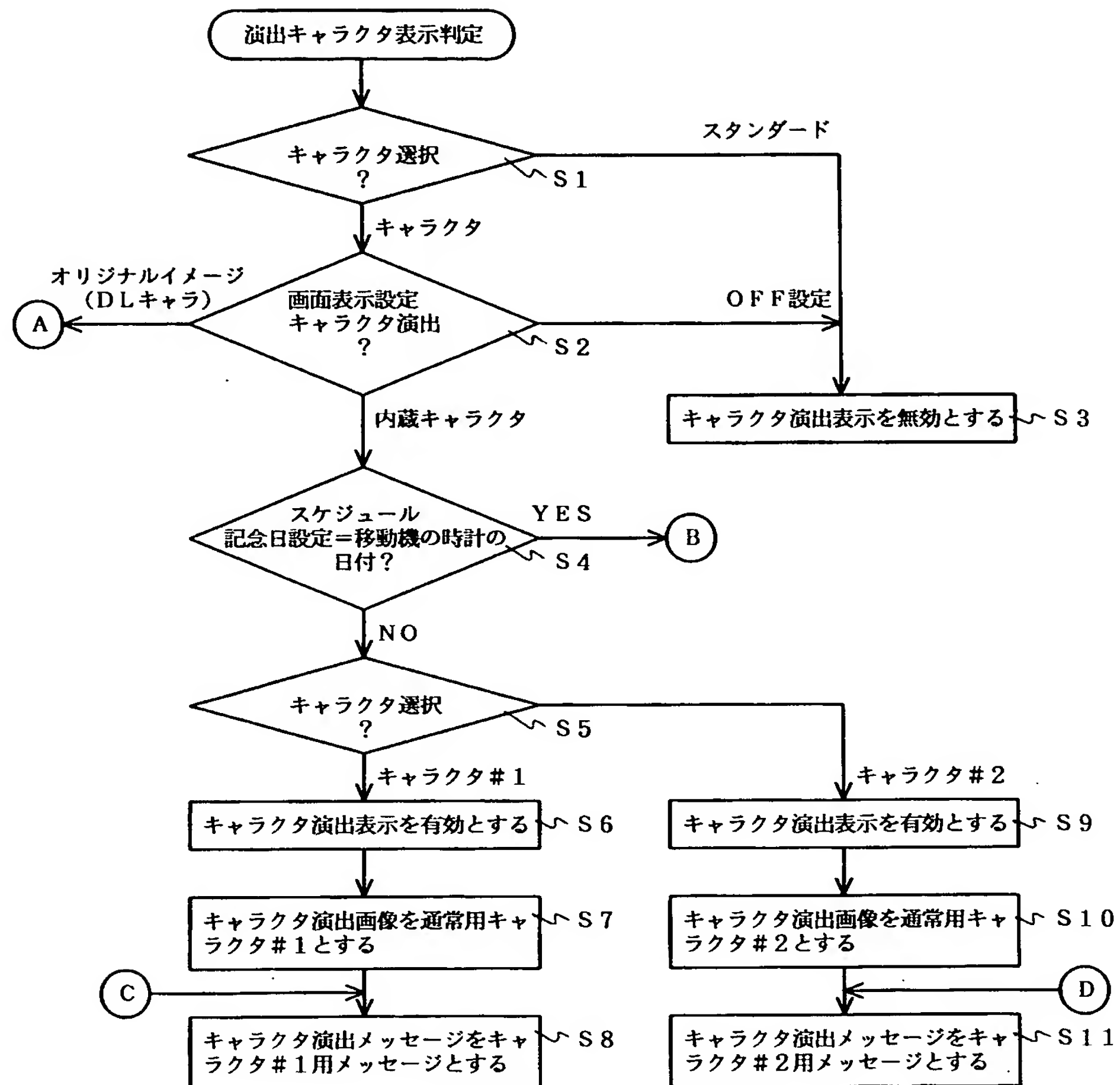
(d) 内蔵キャラクタ#2 (記念日用)

携帯電話機の状態	携帯電話機静時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
不在着信あり	D24	D24	固定
新着メールあり	D24	D24	固定
着信及びメールあり	D24	D24	固定

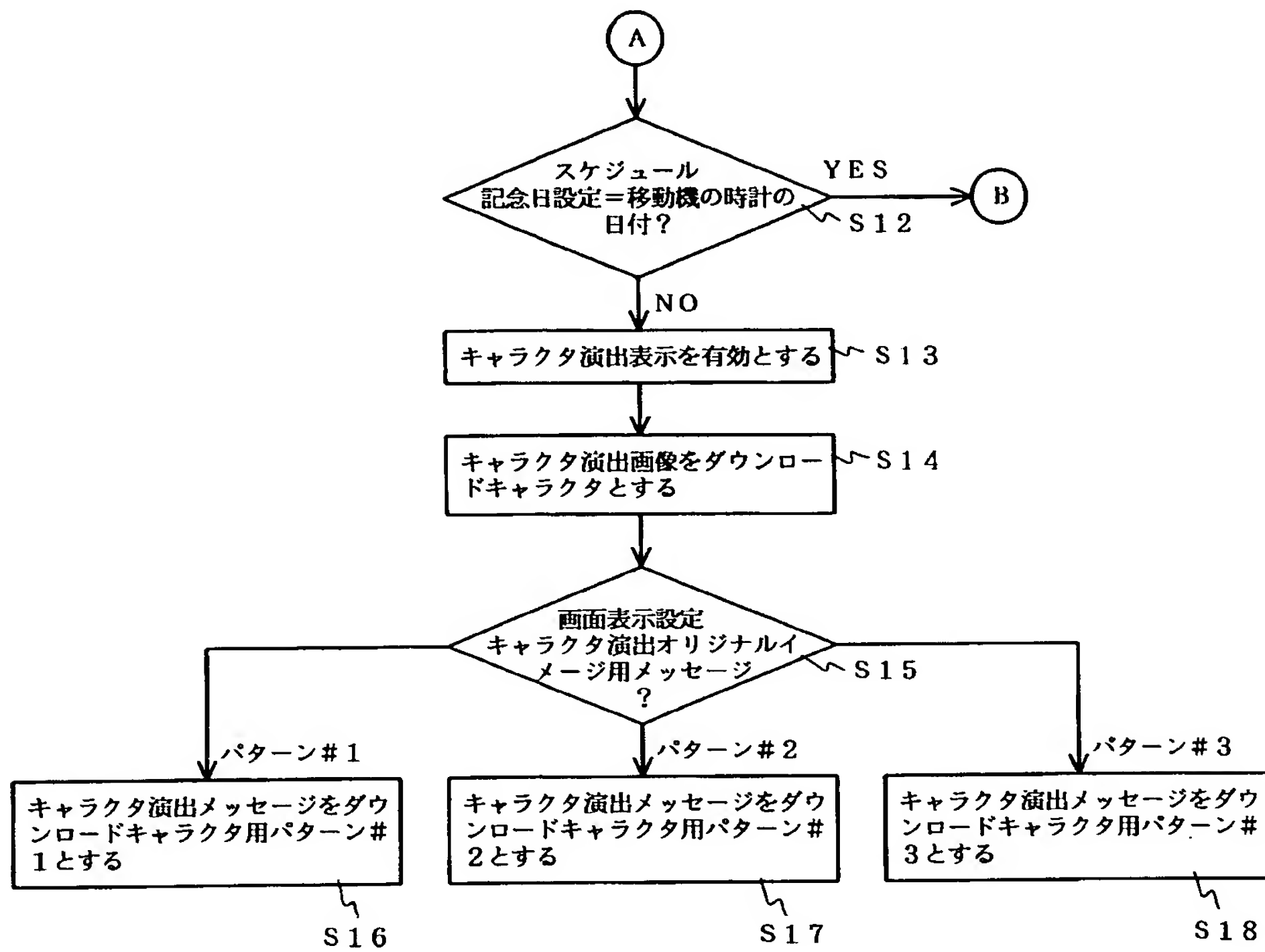
(e) ダウンロードキャラクタ

携帯電話機の状態	携帯電話機静時の時刻(分)		メッセージ
	奇数	偶数	
不在着信あり	DL-D	DL-D	固定
新着メールあり	DL-D	DL-D	固定
着信及びメールあり	DL-D	DL-D	固定

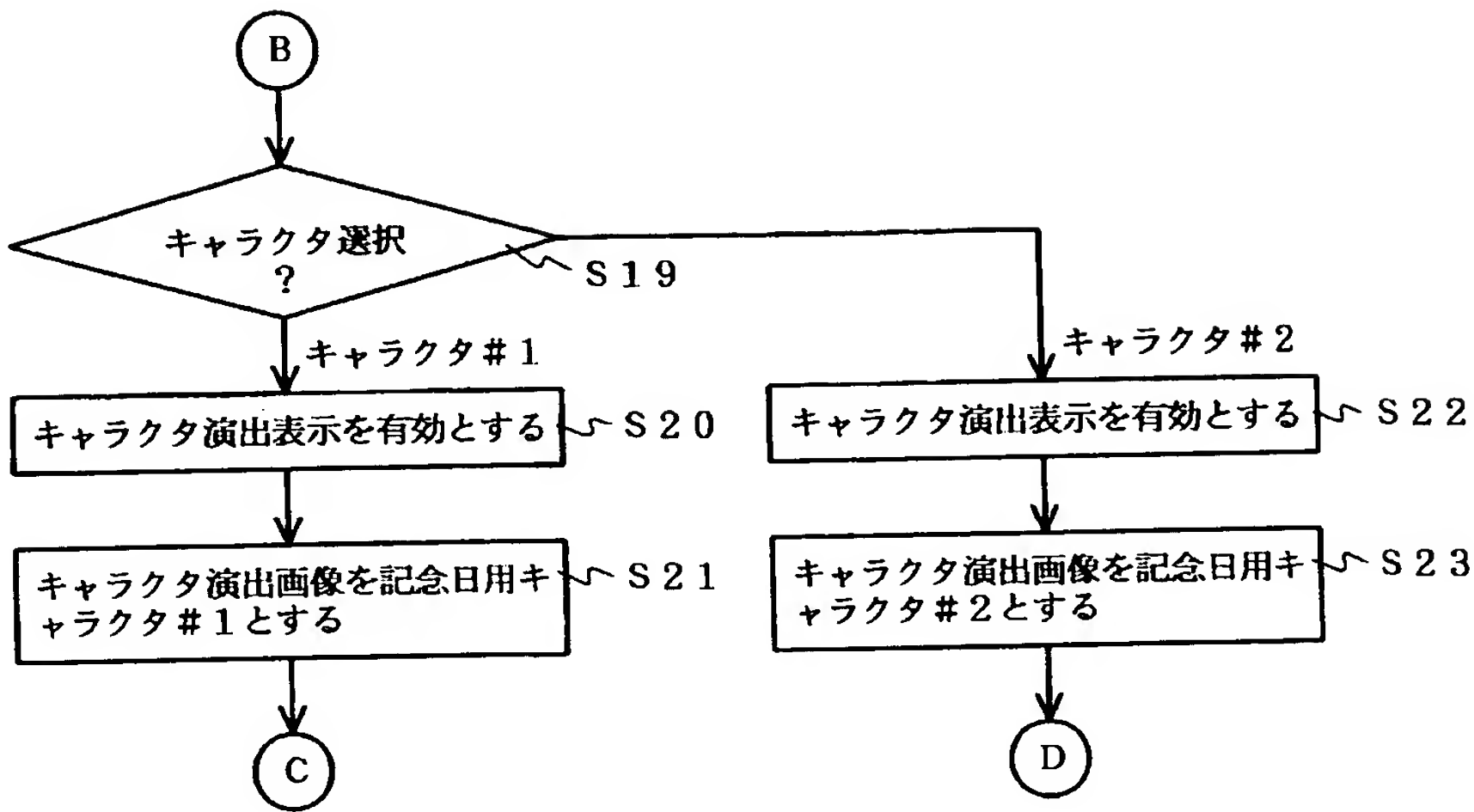
【図 13】



【図 14】



【図 15】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 メモリにおいて多大な記憶領域を占有することなくかつ設定操作を毎回行うことなく、アニメーション表示の表示パターン数を増大可能な携帯電話機を提供する。

【解決手段】 キャラクタ演出手段 1 2 1 は電話発信後の終話ボタン押下時、電話着信の際の終話ボタン押下時、不在着信や新着メールあり時、上側筐体と下側筐体とを閉状態から開状態にした時各々のイベント画面でキャラクタの演出を行う。キャラクタ演出手段 1 2 1 はどのようなキャラクタを表示するかを、発信履歴、発信時の時刻、着信履歴、着信時の時刻、筐体開閉検知機構 1 9 による上側筐体と下側筐体とが開状態となった時刻からそれぞれ判断し、決定したキャラクタを表示部 1 6 の表示画面に表示する。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 2 - 2 9 2 6 0 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[3 9 0 0 1 0 1 7 9]

1 . 変更年月日
[変更理由]
住 所
氏 名

1 9 9 0 年 9 月 2 1 日
新規登録
埼玉県児玉郡神川町大字元原字豊原 3 0 0 番 1 8
埼玉日本電気株式会社